

平成29年度 第1回 西伊豆町総合教育会議議事録

- 1 開催日時 平成29年7月21日（金） 午前10時00分から午前11時30分
2 開催の場所 福祉センター 大会議室

- 3 出席者 町 長 星 野 淨 晋
教 育 長 清 野 裕 章
教 育 委 員 山 本 久美子
教 育 委 員 鈴 木 秀 輝
教 育 委 員 渡 邊 美 成
教 育 委 員 藤 井 繭 子

- 4 事務局 事 務 局 長 高 木 光 一
学 校 教 育 係 長 山 本 諭
社 会 教 育 係 長 萩 本 泰 宏

- 5 傍聴者 なし

6 議 事

- (1) 園・学校等の統廃合について
- (2) 教育委員会関係の新たな取り組みについて
- (3) その他

町当局 ただ今から、平成29年度第1回西伊豆町総合教育会議を開会いたします。はじめに町長から、御挨拶を申し上げます。

町 長 みなさんおはようございます。今日は第1回の西伊豆町総合教育会議ということで、新聞などでご存知だと思いますけども、子どもの少子化に伴って学校の統廃合を進めたいと個人的には思っております。ただ保護者の皆さんや地域の方々の声も聞きながら進めていかなければならないと思っておりますので、忌憚のないご意見を頂きながら、教育委員の皆様のご意見を頂戴できればと思っておりますので、よろしく申し上げます。

町当局 引き続き、議事に入ります。議事の進行は、座長であります町長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

町長 それでは、議事の（１）「園・学校等の統合計画について」事務局から説明をお願いします。

町当局 お手元の資料No. 1をご覧ください。まず、3ページをご覧ください。こちらは、平成29年度の乳幼児、小中学生の数を取りまとめた表になります。表の一番上に記載してあります、5月17日現在の今年度出生予定数ですが、現在の情報では、12月31日の出産予定日までで、仁科小学校区が7人を9人と二人増えまして、合計で15人となっています。今年度も20人前後になると思われます。1ページに戻っていただきたいと思います。小学校の児童数の推移予想であります。

最初に仁科小学校ですが、先ほど今年度の出生予定数が2人増えましたので、平成36年度の1年生が9人になりまして、合計を66人になります。平成36年度ですが、2年生のところは1人転出したとの情報がありまして、そうなりますと2・3年生合わせて16人で、複式学級の対象となります。

2つの学年の合計数が16人の場合は、静岡県独自の措置として、複式学級解消加配がありますが、教職員数が1人減となりまして学級担任外の教職員はいなくなることから、学校運営は厳しい状況にはなってしまう。児童数は現在の141人から平成36年度には66人、65人と半分以下になると想定しております。

次に、田子小学校ですが、今年度から2・3年生が県の加配措置もない複式学級となったことから、皆さんご承知だと思いますが、町が単独で複式学級の補助教員として非常勤講師を配置しています。

法律上は町が児童や生徒の実情に応じて学級編成基準を変更することも可能ですが、それには町単独で常勤教員を任用しなければなりません。その場合には、町の財政的負担が大きかったり、県と同様の研修体制の整備が必要になるなど、県教委からも小規模自治体では難しいのではないかと話も伺っています。そのようなことから統合までの間は、非常勤の補助教員を配置して、子ども達や先生方の負担軽減を図っていきたく考えています。

また、4年生は全て男子で、女の子ならではの優しさやきめ細やかさと触れる機会が少ないことや、男の子の方が幼いということなどが

ら、情緒形成への影響も心配されます。

次に、賀茂小学校ですが、来年度2・3年生が複式学級となる見込みですが、2学年併せて16人なので、県の複式学級解消加配がありますが、級外の教員がいなくなることから学校運営には影響が出てくるかと思われます。平成33年度には県の加配がない複式学級となる見込みですので、田子小と同様に町で複式学級補助の非常勤講師を配置するしかないと考えております。平成36年度には、現在の生徒数の半分以下となりまして、全学年が複式学級になる可能性があります。先ほど田子小で全て男の子の学年があると申し上げましたが、賀茂小では、1年生の通常学級の7人全てが女の子となっていて、こちらも男子児童がいないことによる悪影響が出ないか心配をしています。一番下が3校合わせた児童数となっています。

では、2ページをお願いします。中学校の通常学級の生徒数ですが、まず、西伊豆中学校は、静岡式35人学級の下限が撤廃されたことから、全ての学年が2クラスとなっています。平成35年度からは、全ての学年が1クラスになると予想しております。10年後の平成39年度には、現在の半分程度になるとと思われます。

次に、賀茂中学校ですが、全ての学年が1クラスで、平成39年度には、全てのクラスが一桁の生徒数となりまして、現在の半分になると想定されています。

では、4ページをお願いします。学校等再編の文教施設等整備委員会案（原案）をご覧いただきたいと思えます。こちらは清野教育長から説明をさせていただきます。

教育長

文教施設等整備委員会原案は、過日行われた文教施設等整備委員会にて提案をしたところです。この提案について、各団体へ持ち帰ってその結果について出して、検討をしていきたいと思いますという流れになっております。提案したのは全部で4つになります。

まず1番目の幼保及び認定こども園の統合についてになります。該当する同年代の子どもたちが通う施設として、町内には賀茂幼稚園、伊豆海認定こども園、仁科幼稚園及び同保育園があります。設置場所も園種も異なり、いずれも津波浸水区域にあるため、統合と共に旧洋らんセンター跡地への移転を希望します。統合後の園種は各園の園種を合わせもつ認定こども園が適当と思えますが、住民のニーズと現場の意見を聞いて、総合的に判断していただきたいと思えます。

2番目の小学校の統合について。校舎園舎の老朽化と複式学級を解

消するためには小学校に緊急性が高く、設置場所に関しては幼保等に緊急性が高く、いずれにしても早急な対応が求められます。小学校の一括統合は過去に伊豆市が4校一括統合を伊豆市学校再編計画に位置付けておりましたが、地区内でそのような動きはありません。急に地区内でそのような動きはありませんと出てきますが、なぜこの言葉がここに入るのかといいますと、中学校の方が関係してまいります。町及び町教委関係者は県教委や近隣市町及び近隣市町教委と連絡調整を行い、課題解決にあたるよう臨みます。また、統合後の新しい設置場所は洋らんセンター跡地を希望します。

3番中学校の統合について。昨年までは西伊豆中、賀茂中、松崎中の一括統合も選択肢の一つにありましたが、すでに下田市が下田中、下田東中、稲生沢中、稲梓中の一括統合に向けて動き始めたため、西豆地区における数年内の一括統合が極めて難しい状況になりました。そこで西豆地区における中学校再編は段階的に、出来るだけ速やかに町内の西伊豆中と賀茂中を統合し、近い将来の松崎中との統合に備えるのが現実的です。これは下田市が一括統合をおこない、西豆地区でも一括統合をおこなうとなると、教職員の過員状況というものが生じてきます。過員状況というものは、平たく言えば教職員が余ってしまう。余った教職員をどうするのか、必ずどこかに振り分けなければいけないこととなります。何もせずに給料を支払うというのはいり得ない話でありますので、そのような問題が生じてまいります。ですからこちらの西豆の方は、段階的統合をせざるを得ないという現状です。

それから町立統合中の校舎、校名、校章、校歌等は、暫定的に西伊豆中か賀茂中のいずれかを使用して、町内の学校等再編後は町立統合中と松崎中との統合についての協議を松崎町と始めていただきたいと思えます。なお、町立統合中の設置場所は西豆地区の三中学校の地理的な位置関係により、現在の西伊豆中が適当ではないかと考えます。過去の議事録を見て見ますと、統合については総論賛成、ところが各論の中でも何処にそれを置くかということについて意見が分かれるところで、これについては2年前に白紙に戻した経緯があります。白紙に戻してまた同じような提案になるわけですが、決してチャレンジということではなく、白紙に戻してまっさらな状態から考えてみても、西伊豆中に置くしかないという経過があります。西伊豆中に置くというのは、人口が中でも比較的が多い仁科地区について考えたときに、賀茂中に仮に置いた場合、賀茂中に通うかという問題が生じてきます。歩いて通えるところに松崎中があります。果たして賀茂中に通

うだろうか。これは仁科地区の人たちに賀茂中と言った場合に、踏絵を踏ませる結果になります。決して町全体の共同体意識というのは高い方ではないと私は思っております。どちらかと言いますと近年では、個人の権利意識が高くなってきて、各地区の共同体意識は確かにありますが、しかし行政区である西伊豆町全体の共同体意識はまだまだ各地区の共同体意識、個人の権利意識に比べればそれほどのことでもないのかというようにみております。バスでしか通えない賀茂中なのか、歩いて通える松崎中なのかという選択になったときには、松崎中に流れる子ども達も増えてくるのではないかという見方もしております。

そして4番、給食センターの統合について。現在西伊豆町内には給食センター2ヶ所と給食室1ヶ所があり、いずれも老朽化が進んでおります。これらの施設は、学校等再編が進展した際、給食センター1ヶ所を除いて不要になるため、給食施設の統合を進めていただきたいと思っております。また、統合と共に町立統合小と町立統合園の隣接地への移転を希望します。

先ほど幼稚園について、あとで補足がありますとお伝えしましたが、この文教施設等整備委員会で、口頭による提案をしております。口頭による提案というのは、先に学校等再編の大まかな提案がありますので、それと同等に扱うのではなく、あくまで再編まで待たないということについての提案を2点ほどさせていただきました。

一つは仁科幼稚園と保育園について。これについては同じ敷地内の同じ建物内にあって、どちらも園児数が減少して、保護者は幼稚園よりも保育園への入園を希望する傾向にあるということ、職員の勤務も厳格に幼保で分けることは難しく、すでに認定こども園と同様の勤務形態になっております。実際に園長も幼保で同じ、園務主任も幼保で同じような勤務になっております。これについて、認定こども園にしたいというような提案をさせていただきました。その方向でというような力強い意見をいただきましたので、その方向で準備を進めてまいりますということになりました。

もう1点は賀茂幼稚園。賀茂幼稚園は新入園児が3名。今後も新入園児は多少の増減を繰り返しながら同程度の人数で推移すると考えられます。それについて通園バスを伊豆海認定こども園まで延長したらどうかという意見がありまして、これについては2つの意見の違った考え方を紹介いたしました。一つは1、2年で子ども達の環境が変わる、子どもの人格形成にどのような影響が出るのか不明であるという

こと。2点目は緊急避難的措置であって、どこまで地域住民の理解が得られるのか分からないということ。

このことからなかなか一步目を踏み出せない現状があります。皆さんはどうお考えでしょうかと提案の仕方でありましたが、これについても強い意見というものは聞かれませんでした。現在のところ保留ということになります。これについては現在も調整を進めているところでもありますけども、もう少しお時間を頂きたいところです。

以上が学校再編、それからそれ以前の緊急的な措置についてでした。以上、資料No. 1の説明とさせていただきます。

町長 それではこの(1)につきまして、何か質問や意見がありましたら、お願いいたします。

委員 話を伺いまして、妥当な線でやっていくのかと思って見させていただきました。松崎中との統合はまだ話はまだ進んでいないのか。

教育長 この方向で話を進めますということについては、教育委員会同士での話は行っております。

委員 松崎もそのような意向があるのか。

教育長 松崎もいずれそうせざるを得ない状況になっていると思います。また、松崎高校が存続できるのかどうなのかということもありますけども、これについては今月5日に県の方へと行きまして、高校教育課へとお話しに行きました。

町長 これは松崎高校があるので、西伊豆松崎で産まれてもバスで30分圏内に高校がある状況なのですが、仮に無くなった場合に下田に行くか土肥に行くかになります。その土肥も伊豆総合の分校扱いになっております。伊豆市の土肥地区に限っても少子化はすごい勢いで来ておりますので、土肥分校が残るかどうか疑問視しなければいけない状況なので、どうにか松崎に高校を置かなければ、ここに若い人が住めなくなってしまいます。

高校生になった時点で1時間のバス通学を余儀なくなれる状況はかなり厳しいものがありますので、どうにか松崎高校を残したいというのが、今の松崎の教育長と首長のご意見があります。残すためには中

学校を西伊豆町の中学校と松崎町の中学校を合わせて、松崎の高校の中にいれてもらってでも存続をしないと厳しいのではないかとということがありまして、今皆さんに子どもの推移を見ていただいているのですけども、今年生まれてくる人数が20人にも満たない。これは松崎町にも言えることなので、両方合わせても40人です。そうすると全員が松崎高校へ行っても、一クラスしかないという状況になりますから、なんとしても残さなければということがあるので、どうか西伊豆、松崎の中学校を最終的には1つにしたいです。

ただ、先ほど教育長が言われたように、下田の4中学校が一つになるというので、今は拙速には出来ないので、段階を追ってやりましょと町同士ではそんな話になっておりますけども、いきなりそれを一足飛びでやるということはできないので、今このような相談をさせていただいている所なので、その辺をふまえて皆さんからご意見がいただければ松崎とお話をするときにも、西伊豆町サイドとしてはこのような意見がありますと言えるようになるのかと思います。これはこの前のESDのお話で大学の教授が来て、地域の学校を無くさない方がいいというようなお話を最後いただきましたけれども、無くしたくないことには無くしたくないのですが、先ほどお話にもありました通り男子のみの学年があったり、女子のみの学年があったりしますし、賀茂幼稚園は今年3人しか年少がいないので、本当にこれが子どものためになるのか考えますと、しょうがないけれども一緒にせざるを得ないのかというところまで切羽詰まっておりますので、なるべくスムーズに進められればと思っております。

周りの保護者の方たちと話していても、10人ではちょっとという話もあります。先ほどの下田の4中学校を一つにして、西伊豆の中学校も一つにすると教職員が余るのでできないという話がありましたけれども、逆に幼保に限っては1つにすることで職員の数がだいぶ増えます。それにより、お勤めされている保護者の要望に応えられる配置はできると思います。今は3カ所に分けておりますので、一つになることによって、朝の早番を7時くらいから受けたり、6時までの遅番を7時までにしてもらったり、しかし勤務形態は一人が朝から晩までいるのではなく、朝から午前までいたり、正午から夕方までいたりして溢れた職員をうまく活用できると思います。

西伊豆町は観光地ですので、日曜日仕事をするときには子どもがいるから仕事ができないというのも、土曜だけではなく、日曜日の受けいれができるようになれば、仕事も子育ても両立するまちづくりという

のも出来るのかということもあるので、そういうのをふまえて一つが良いかと思っております。ただ子どもの人数が少ないから一つということではなく、一つにすることによって、いいサービスが提供できればとおもっております。しかし今の3園の状況でそのサービスというのは、職員に重労働をさせることを強制しなければならないため、今の状況ではできないですけれども、統合すればできるのかと思っております。その辺も含めてご意見を頂ければと思っております。

委員 統合したときに1番の問題は、通学通園のことだと思う。下田も全額負担という話をしていた。やはり一部負担ではなく全額負担でないと、歩いて通学する子とバスで通学する子で負担の差がでてしまう。

町長 今でも賀茂小学校、賀茂中学校は全額町が負担しておりますので、統合すれば必ず町が出す方向になると思います。できれば保護者の方からそういう意見を言ってもらい、町は出しますという回答をしてご理解をしていただきたい。逆にこちらからなんでもやると言わない方がいいのかと。前回私も宇久須の説明会に行ったときに、保護者の方は統合したときに制服はどうするのかと話をしておりましたので、そこも逆に保護者の方から今回こういった統合の関係で意見を頂いたときにあれば、町の方から出しますと言えるのかと思っております。

なんでもかんでも大盤振る舞いは出来ませんが、逆に少し出させていただくことでご理解いただけるのであれば、多少の予算は仕方ないということではありませんが、それで解決の糸口になればと思っております。

あとの問題は車の台数と言いますか、一遍に動きはじめますので、現在は賀茂小賀茂中と賀茂幼で来ているだけですけれども、今度は仮に洋らん跡地が大丈夫ということになると、宇久須の方から来る車と仁科の方から来る車、賀茂の方から来る人が田子に降りると時間がかかるから直に行かせてほしいということになると、田子から出さなければならぬということも出てきますので、最終的には東海バスとの話し合いになるかと思っております。

時間帯によっては小学校と中学校と幼保と変わってきますし、あくまでも幼稚園に限っては幼稚園バスというのは存在しますが、保育園に限っては保護者が連れてくるのが大前提なので、そういうのをどうしたらいいのか。私の迎えは7時だから7時にバスを出してというのが始まってくると、他も言ってきますので、それは出来ない。4時の

降園の園児に限っては出しますが、それ以降に限ってはお預かりしますが、迎えにきてくださいというような対応をする等、その辺りは保護者の負担になるべくならないようにしたいと思っています。

委員 仁科幼保の認定こども園に代わる年度はある程度決まっているのですか。

教育長 来年度できればということで、9月に募集がはじまりますので、それまでには少なくともこの町内では整えておきたい。

町長 基本的には変わらない。名前が変わって、こども園の幼稚部と保育部に代わると言った形で、ただ制度的には何かを入れなければならないといったのはあるのかもしれませんが、状態としては今でも同じ教室でやっております。

委員 何が変わるのでしょうか。認定こども園という名前になることで、今の状態から変わるのですか。

町長 認定こども園にすることによって、何か制度を追加しなければならないのではないか。

町当局 基本的には今の施設で対応できます。今の園長が伊豆海認定こども園にしたときに勤めておりましたので、町長が先ほど申しあげましたけれども、認定こども園にすることによって、今は幼稚園の担任、保育園の担任それぞれ数名の担任でいて、1クラスとしてみていたのですが、それが10人以下の担任で十分見れますので、空いた保育士を他のところに充てることができます。子育て支援センターも全て臨時職員なのですが、支援センターから幼稚園、保育園の接続というのも少し問題になっておりますので、その辺も教職員の配置をすることができたり、特別な支援が必要な所に配置ができたりということで手厚い支援は出来るようにはなっていくと思います。

町長 認定こども園にするときは、一時預かりをしなければいけないというのはありましたか。

町当局 一時預かりは認定こども園だからということではありません。ただ

一時預かりも新たに認定こども園にしたときに行くことは可能だと思います。ただ臨時職員を厚くしていかなければと思います。必須ではなかったかと思います。

委員 今支援センターの中でありますね。手厚くなることでいいですね。賀茂幼の伊豆海の方に行ってしまうのは、子どもの避難地に関して悩まされていたと思うので、子どもが安全な場所で過ごせるというのが一番だと思いますが、その前段階で伊豆海の方へ行くということで、保護者の方たちの意見はどうなのだろうという心配があります。

町長 一番微妙な所で賀茂幼稚園は賀茂村のときの賀茂幼稚園がそのまま形態として残っておりまして、伊豆海と仁科は西伊豆が存続したときのままの形態をずっと貫いています。なので、賀茂幼稚園は幼稚園バスが存在するのですが、伊豆海と仁科は存在しません。

これが賀茂幼稚園を廃止して伊豆海の方へ行きましょうと言った場合には、宇久須安良里の方は幼稚園バスで来られるのですが、今度仁科の保護者が幼稚園バスを出してほしいとなったときに対応できるかという難しいものがありますので、一概にこちらの方から積極的に投げられないという部分と、すでに保育部の方は仁科の幼稚園に通っている宇久須の保護者もいれば、伊豆海に通っている宇久須の保護者もいますので、保育部はもうそうしております。逆にそのあたりがありますので、今の賀茂幼稚園の年少が3人というのがあります。幼稚園なので、終わってから保育ママで4、5時まで見てもらっている子どももおります。

基本的には昔の賀茂村の幼稚園という制度が残っているので少し難しい。昔は保育園にいかせるなどというのが宇久須の方にあって、親が見るのが当りまえという流れも合併当初はありました。今でもそのようなことを言うような人はいないと思いますが。

委員 今現在だと賀茂幼稚園の保護者は少しでも人数を多く統合前に合わせたいところなのでしょうか。

町長 ただ教育長が先ほど言ったように、一応話は投げかけたけれども積極的に応援というのはなく、そのときは代表の方しか来られていなかったもので、今回賀茂幼稚園に持ち帰ってお話をして、保護者がどうお話をするのか。そこで皆さんが人数が少ないので伊豆海に行こうかと

いう話になれば、幼稚園バスを伊豆海まで延ばして、仁科はこういう状況だけど理解してほしいという話をするのは可能だと思う。ただ保護者が嫌だというのを持ってくるわけにはいきません。

教育長 そのあたりの本音を聞いてみたい。幼稚園の園長はアンケートをとるという提案がありました。しかし賀茂幼稚園がこれからも存続なのかどうなのかというところでアンケートはどうなのか。そこまで多い数ではないので聞き取り調査でいいのではないのでしょうか。その聞き取り調査で全員が伊豆海へということであればそれがいいのかもしれないのですが、その結果賀茂幼稚園だという強硬な意見が出たときに、その方の処遇を一つ間違えればその後の統合にも影響するだろうということもあります。なので、こちらがアクションを起こすよりか、保護者の方からアクションを起こしてくれた方がその辺は助かる場所があります。

町長 逆に保育園で伊豆海や仁科に行っている方は保護者が理解しているからいいのですけれども、幼稚園を伊豆海に連れて行き、小学校を賀茂小学校というのが1年後2年後に出てきます。そうすると一回離すことになってしまうのが、それが大丈夫なのかというところがあります。

そして離して何年後かに統合しましょうという話をしておりますので、その環境の変化を子どもに与えてもいいのかというのも教育長は心配しております。積極的に町の方からは言いにくいところがあります。

委員 多くなるのはいいことなのですが、また離れるということが先に見えているのが。

町長 去年の時点で伊豆海に通っていた子どもが、賀茂小学校に入学前のリハーサルで私だけここにいられないと泣いたことがありまして、ただ入学して何日も経てばそこで友達が出来るので落ち着いたという話も聞いております。そういう子どもの心の葛藤も出てくるので、あえてそういうことを誘発させることは無いのかというところもあります。

委員 町としては伊豆海と合わさることは積極的に行きたいのですか。

町 長 先ほど教育長が言ったように、保護者が積極的なのだったらやってあげたいというところです。

教育長 環境をあちこち変えるということによるリスクについて理解したうえで選択したならば、それがいいのですけれども、そこのところを行政の都合でいきなり賀茂幼稚園を閉園となると乱暴かと思います。

委 員 保護者も多い人数のところを選ぶのか、どちらにしる場所的には伊豆海も賀茂も安全な場所ではないので、伊豆海に行っても同じ条件だと思います。だったら人数を増やして子ども達に園生活を送らせてあげたいかどうかということが保護者の考え次第というところですか。

町 長 あとは祖父、祖母がお迎えに行ける人が安良里は多い。一応幼稚園バスを伊豆海から出すということで理解をしてもらえればいいのですが、そういった事情もあります。逆に何か突発的にあったときに引取りに来てくださいというメールが来るのですが、仕事しているときに行けるわけがないと思うことがあります。

ですが園としては責任が取れないので、できればお迎えに来てもらいたいというときに、車を持っていない祖父や祖母は賀茂幼稚園だったら行けるけれども、伊豆海までは行けないということがありますので、そこもケアしなければなりません。

なので、最終的に洋らの跡地というのは、本当に土砂崩れでもない限りは安全という定義の中で、保護者が仕事終わってからお迎えに来てもらえばいいですということをやらなければいけません。今みたいに役場の職員に迎えに来いと言われたところで、仕事がありますのでいけません。民間でも当たり前です。あとは統合が目の前に掲げられているのに、安良里から子どもの声を無くすのかという地域の声もあると思います。

委 員 簡単に言うと洋らんに持っていくまでは、賀茂幼稚園に置いておくという声が出てくるのですね。

町 長 そうですね。そこが難しい所です。

教育長 松崎で同じようなことがありまして、岩科幼稚園になります。最終的に残ったのが2人だったようです。その2人については、2人とも意見が一致して、松崎幼稚園へということになったようです。それはやはり最終的には保護者の判断になります。その判断を保護者に促したときに、少ない人数で分かれてしまうという可能性もあります。

委員 賀茂幼稚園の保護者同士で話し合ってもらって、意見がまとまってくればいいが。

町長 みんながそういう空気なのに、自分は違うというのは逆に言いにくいということもあります。なので、みんなで話し合うのは少し危険かなと思います。先ほど教育長が言いましたように、聞き取りを一人ずつしていった方がいいかと。そこで意見の違いによる仲間はずれは作りたくはありません。

委員 岩科も残っていたいという人もいたが、これではという声もあり移ったと思う。1人でも残りたいという声があったら残さざるを得ないと思う。ですが保育までなら1対1でもいいと思うが、学校は保育と違い学び合うところですので、大勢居ないと学び合いは出来ないと思う。

町長 議事の(1)園・学校等の統廃合についての意見交換は以上とさせていただきます、(2)教育委員会関係の新たな取り組みについてを議題といたします。

まず、教育委員会事務局から資料の説明をさせます。

町当局 それでは、資料No. 2の「平成29年度、教育委員会関係主要施策について」ですが、ご説明させていただきます。当初予算関係で以前からご説明申し上げているものが殆どだと思いますので、新規の取り組みを中心に簡単に説明をさせていただきます。

では最初に、「間伐材利用促進事業関係」になりますが、①の児童(小学校)に間伐材を利用した机と椅子の寄贈が主な事業になりますが、当初は新入学児童のみへの寄贈でしたが、学校からの要望があり、現在は全ての児童に寄贈されております。今年度は、来年度入学児童用の机と椅子を作成いたします。

次に、「子育て支援関係」になりますが、こちらは全てが2年目の

事業となります。主には保育料と幼保の給食費無償化、保育時間の延長、放課後児童クラブの運営であります。放課後児童クラブにつきましては、今年度大幅に利用者が増えていますが、クラブがない田子小と賀茂小の児童への対応が課題ではあります。

次に、「不登校対策事業」になります。こちらも2年目の事業となりますが、主には適応指導教室の運営になります。平成28年度は4人が利用し、学校復帰を目指しましたが、完全復帰までは至らなかったものの、中学3年生は自らが進路を定め、全ての子が希望する学校に進学でき、卒業式にも出席するなど、一定の成果はあったものと思われまます。今年度も引き続き保護者にも寄り添いながら支援をしていきたいと考えています。

次に「国際教育の推進」になります。皆さんご承知のとおりJETプログラムを活用し、外国人講師等を5人配置していますが、国際スポーツ交流員については今年の8月途中までとしております。

澎湖県との中学生交流も昨年同様4人の生徒がこの8月に訪問する予定となっております。

では、新規の事業となりますが、③の静岡大学共同研究に基づく幼稚園の年長から小学校4年生までの英語活用ですが、9月に静岡大学の教授と学生が来町し、学校等から聞き取り調査を実施し、成果の検証をおこなう予定となっております。④の小学校英語環境充実事業では、小学校において普段から英語に触れ親しむ環境を整えるため、各小学校が自ら考え工夫して実施するようお願いをしているところであります。⑤の町内留学（体験型英語合宿）事業ですが、様々な生活体験の中で英語でのコミュニケーション能力を高めるものですが、国際交流員が中心となって企画をしまして、8月4日、5日の1泊2日で計画をしまして、中学生8人、小学生4人が参加する予定となっております。その他、⑦になりますが、ALTの一人が個人的に応募し助成を受けている、スルガ銀行企業経営研究所の国際交流認定事業ですが、映画を通じた交流活動ということで、今年度5回の開催を予定をしまして、既に1度開催されましたが、大変多くの方にご参加いただきました。本日第2回目が開催させます。

次に、裏面になりますが、施設整備関係はご覧のような新規工事等を予定計上してありまして、①の賀茂中学校体育館非構造部耐震化工事は、夏休み中の工事を計画しています。②の仁科小トイレ洋式化工事ですが、8月中には工事を完了させる予定です。③の賀茂給食センター給食車は、5月に発注してありますが、車の納車に時間がかかる

だけでなく、改良にも時間を要することから納車は年末になるとのことです。

次に、教育環境の整備・充実ですが、新規事業としては、②の田子小学校への複式学級補助教員の配置、③の指導主事の共同設置、④のZ会・LEGO社のプログラミング教育がありまして、プログラミング教育については、Z会がLEGO社の教育用ロボットを使い、プログラムの基礎とロボット制御について学び、「防災」という観点から応用例を考えさせるもので、8月に指導者養成研修を行い、10月に賀茂小学校の5・6年生20人を対象に全10回の講座を予定しています。

最後に、特色ある学校づくりの推進関係ですが、こちらは学校裁量型予算として、こちらに記載してございますが、各学校長が、学校経営目標や児童生徒の実態・学力調査結果等に基づき、予算の範囲内で学力・授業力向上等のための対応策、研修内容等を検討し、独自の計画を策定し実施するもので、継続事業として実施をしております。

以上、資料No. 2の説明とさせていただきます。

町長 只今、教育委員会事務局から説明がありましたが、何かご意見があればお願いします。

委員 いいでしょうか。ICT環境の充実について、物は準備しているのですが、使い方等の研修というのは、各学校でやっているのか。それとも町内全体でやっているのか。特色ある作り推進でICT環境の充実があります。ハード面は充実しているのだから来ていると思うが、それを指導していく教師の研修のあり方は、町全体で研修体制を作っているのか、各学校の研修で任せているのか。

町当局 こちらについては学校裁量予算ということで学校へ任せております。全体での研修会というのは計画してございません。

委員 堪能な教師のいる学校は進んでいくが、そうでないとなかなか。お互いのところに見に行くような体制がありましたけれども、その辺をやっていないと。せっかくいいものを入れているので。

町当局 その辺も学校での差が出ないように教育委員会で支援していきたいと思っております。

委員 間伐の利用につきまして、間伐の利用がすごくいいのかは置いておきまして、もしこのまま間伐を利用していく事業があるのならば、町の人にも目につくものもあつたらいいなと思いました。

町当局 港公園のトイレにも間伐材を使用しております。

委員 町の主な名所の看板が間伐材で出来ていると言ったような、他の利用方法を広げていけば。間伐材は続けていくのですか。

町長 みなさんもお存じのように、町の面積の8割以上は山で町有林の面積も広いです。ある程度国や県に補助金を貰いながら、町としては間伐を続けていきたい。出た材につきましては、合板会社にもっていったり、チップにしたりとありますけれども、できれば色々な面で要望があれば使っていきたいと思っております。

この前宇久須の大久須地区の要望で、花壇用の丸太が欲しいとありましたので、乾燥や防腐剤等必要になってくると思いますが、言っただけであればお渡ししたいと思えます。逆に役場の駐車場に間伐材らしきものを使用したベンチ等もありますので、そういうもので良ければ作ってもらってお渡しすることは可能かと思っております。ただ看板になりますと、木なので難しいところがあると思うのですけれども、逆に要望があつて材をお渡しすることは可能ですので、地区で取り組んでいただくことは出来るかと思えます。

委員 町の中で目につく物が作れるといいなと思えます。

委員 今の間伐材は町有林を町で間伐しているのか。

町長 町の事業になります。民間の方でも自分の屋敷の物をやってくれと言われれば。ですが、今は木を出しても利益にならないとおもいますけれども、補助を入れればそんなに持ち出しなく出来るのではないかと思います。

委員 今町内会だったら、間伐を色々やらせてもらったが、出しやすいところは出しているのですが、大体のところはそのまま放置している。

町長 間伐するのはいいのですが、持ってくる費用がもったいないのでどうしても捨ててしまう。お金にはならないから。そういうのを含めて県有林を使って町が建物を建てる時に使いなさいというのもありますので、活用できれば。その一環で机と椅子、本立てがありましたので活用しているかと。先ほど藤井委員が言われたように町内の方で利用されるのであれば、物自体は持っていくますので、うまく使っていたらと思います。

委員 間伐材の机のことになるが、この前訪問で回ったときに見て、机の上が傷だらけになっていた。松崎の小学校の物の話を聞いたら、傷だらけで、穴が開いているようなものまでであると聞いた。表面をもう少しコーティングする、メラミン加工をした天板の方が使いやすい。今の子ども達は下敷きを使わない。

委員 文字に筆圧で表面は結構傷つきますね。コーティングはされているという話なのですが、もう少し強くできないのですか。

教育長 この辺の木で作っているので、おそらく杉を使っていると思います。

委員 メラミン加工で施行しないと、普通の木では昔の机と同じように、傷だらけになってしまう。どうしても傷がものすごく残っているというのが、見た感じあまりいい物ではない。あれは卒業すると持ち帰るものなのか。

町長 基本的には中学まで同じものになります。

町当局 基本的には小学生までだったのですけれども、去年製作した分は設計を替えまして、高く出来るようにいたしました。ただ中学校まで使うというのは決定していません。

委員 これは学校に寄付しますという人は出ていないのか。

町当局 まだ寄贈した卒業生がいらないので何とも言えませんが、中にはあるかもしれません。

委員 あの感じだと6年間使うとボロボロになる。結構個人差はあるが、中

には字を書くのにもデコボコしているものもある。

委員 今後加工がうまく出来るようになるといいですね。

委員 もう原材料とは別な物のように加工するしかない。

町当局 貼り合わせているところで隙間が空いている物がある等、出来が違うものがあります。

町長 木が縫れた等であれば、ある程度町がブラッシング等をしてあげなければなりません、子どもが穿った物に限っては自分の机だから責任持てとしか言いようがありません。そこはあまりシャープペンなどで穿らないようにしてもらいしかありません。

委員 ですが、1個1個のメンテナンスに構ってられない。

町当局 保護者の方たちも教室に入って木の香りがいいと言っていた方が結構いらっしゃいます。

委員 ナチュラルな色に温かみがありまして、教室に入ると雰囲気違います。

委員 あとは1年生にとっては重いということか。高学年にとっては良いみたいだが、椅子1つでも結構重いと聞く。

教育長 掃除の時間も置いて運ばないようです。

委員 教室の壁を木材にすれば雰囲気はでる。

町長 統合で立て直しという話になれば、そのようなデザインにしなければ方向性としては駄目なのです、今の物に手をかけても数年で使わなくなる可能性もあるので、そこは。

教育長 机があまりにもひどい物については、削ってその上にコーティングということで、どれくらいの費用が掛かるか相談になるかと思われます。

町長 来年またそのような課題があれば夏休み中に検討した方が良いかもしれない。

委員 これはまだ続けていくのか。

町長 逆にこれをやめるわけにはいかないですね。机は用意しなければ前の奴は処分をしてしまったので、いずれにしても6年生になって帰って帰るにしても、町に処分を依頼するにしても、新1年生の机が無くなってしまいます。

委員 西伊豆町の教育環境はとても充実しているという印象です。

町長 個人的にはもう少し英語教育にスパルタで教えたい。中学校へ上がるときには日常会話を喋れるくらいのほうが。逆に今は喋れないと話にならないので、中学校へ上がるときにそれくらいできれば、高校へ上がるときに相当楽になると思います。中学校は英語を勉強することが大変なので、英語しか喋れない日にちを1か月に1日作るとか。

委員 とても思うが、喋りの英語と学校英語ではギャップを感じる。別物になっている。確かに生きた英語を学ぶには、子どもの人数に対して外国人の先生がこれだけいるので、これは素晴らしい環境だと思う。だが学校の英語の授業はそれとは別のように子ども達が捉えている。会話の英語と勉強の英語では全く違う。

町長 国語も一緒だと思います。口語体と文語体が違うようなものと同じ。

委員 町長がおっしゃったように、喋れるように教育というと、教育と言いつぎると嫌いになってしまうかもしれない。本当の英語というのは人と喋れるコミュニケーション。それを自分で必要と感じてやれば急に伸びるし、素晴らしいと思う。それが必要と感じずに、一方的に勉強だから喋れるようになれとなると嫌いになってしまう。そういうのもあるので非常に難しい。

町当局 昨年澎湖県に行った中学生も向こうでコミュニケーションをとるためには英語を喋れなければという気になっておりました。そのような

きっかけ作りをいくつかできれば。その辺に力を入れて行ければと思っております。

委員 昨年度やったアメリカとの手紙は素晴らしかった。

町当局 国際交流員が企画をしてやっており、今年度も補助金申請をしてやろうかと話しております。できればスカイプを利用して通話できればいいのですが、時差の問題がありますので調整が難しいです。

委員 英語については使うところに追い込まないと身につかない。この前に松崎中学校へ教育実習で来ていた大学生は英検準1級を持っていたけれども、外国へ行ったら通用しなかったと話していた。向こうに行って、誰も助けてくれない所にて喋れるようになったと言っていた。だからガイドがいて通訳してくれる人がいて助けてくれると上達しませんでしたとも言っていた。

例えば合宿だったら、このときは英語だけしか使えない、日本語は一切使わない、誰も助けてくれない。もう喋らざるを得ないという環境に追い込まないと。

委員 私も同意ですが子ども達の中には、口には出せないけれども外国人を鬱陶しく思っている人もいると思う。国語力が必要だと思う。英語が喋れたとしてもいう内容が分からないと話ができない。喋る内容があつての方便であつて、内容が大事だと思う。

委員 委員の意見に賛成なのですが、娘が鳥飼玖美子さんという日本で初めて同時通訳を行った立教大学の先生の授業を受けておりました。その中には外国人もおりまして、講義の中で宗教について喋りなさいということがあつたときに、外国人はずっと喋っているのですけれども、日本人は5分と喋ることができない。

自分の意見を言うことができなければ、外国語を習っても喋ることができない。母国語でしっかり意見をまとめられるようになってから習えばいいと先生は言っておりました。

委員 外国人が沢山日常生活の中にいるということはとても代えがたい環境。その環境を体験しているということがかけがえのない経験だと思う。

町 長 あとは、私たちは日本語を学びたくて学んだのではないこと。英語も知らず知らずに入れておけば、なんかあったときとっさに出てくるのかと思う。小さいときの方が抵抗感もなく、普通に喋れるのは元が無ければできない。文書で習ってからだとできない。大きくなってくると恥ずかしくなってくるので、逆に小さいときからの方がいい。

委 員 この前松高でベトナムの子が2週間のホームステイをしに来たときに、ベトナム語は分からないが、つたない英語だけでも英語なら通じました。否定されている日本の英語教育ですが、何とかはなると思いました。あとは喋る環境に入れば、それが元になっているから出来るようになると思う。そういう環境にこの辺だと入れない。

委 員 この前田子で散歩をしていたところ、堂ヶ島温泉ホテルの研修生の台湾の方が夕陽の写真を撮る所が分からないということで案内をしました。そういうことがあったので、初めてそういうところにいるということを知りました。

町 長 海外の方と人間関係が上手に出来ると楽しいと思いますし、逆に国がそれをやりたいのだと思います。体験した外国人が帰国して、日本の良さを広めて欲しいので、西伊豆町に3人も4人も外国人を配置しても補助金を出しているのだと思います。1人のALTは休みの日があれば太鼓をやったり、空手をやってみたりと日本の文化を学んで帰ろうとしていると話を聞いたことがあります。

委 員 教育委員会の事業でお泊り会のようなものをやると話を聞いたが、もう行なったのか。

町 長 町内留学は8月の頭にやります。この主要施策について何かありますか。

委 員 基本的なことなのですが、幼保が無償化になりましたが、それを行なうときに子どもを育てやすい町ということでおこなったと記憶しているのですが、それでも子どもが減っているということと、私たちの世代で話をしておりますと、無償化にしなくても若い人が来やすい環境にすればいいと話が出ます。一度無償化にしてしまったから、毎年

無償化ということではなく、それがどういう利益をもたらすか検証していってほしい。

町 長 これはこの前に課長会議の中でも話をしたのですが、保護者の中でも無償化はやり過ぎではないかという人もおります。無償だから幼稚園に行かせればいいが、保育園へ行かせている保護者もいます。こうすると子育てを放棄しているのではないかという話にも繋がるので、どこかで検討はしなければいけないと思っております。ただこれだけの恩恵を与えておりますので、どうやって切るかというのも問題なので、かなり難しいことだと思います。

委 員 お金が一番かかってくるのは高校生以上だと思う。高校3年の子を持つ親で集まるとお金の話は必ず出る。今は大学に行くには借金をしていく。田舎はそれからの生活費もかかってくる。奨学金というものの話を聞き、とてもきつい話に聞こえた。この大学に入ったら、その次の就職先も決まっております、そこで最低でも数年働けば、奨学金を出すというような話を聞いた。

町 長 看護師なんかはほとんどそうですね。職員を確保したいので、奨学金を出して数年は働いてもらい、残ってくれるのなら残ってもらい、他に行くなら止めるようなことはしません。

委 員 幼稚園はお金がかからないとは言わないが、何とかだましまし中学生くらいまでは何とか育てられると思う。そこから先のところで援助のバランスがそっちに行けばいいと思う。

委 員 今の松高の特進クラスはとても丁寧に教えてくれている。朝7時30分から先生方が教えてくれている。まったく空気が違い、先生が1人1人をしっかり見ている。

委 員 先ほど委員がおっしゃったように、例えば成績が1番の子は下田へのバス代の補助をするということをやってみたらいいかもしれない。

町 長 世の中の仕組みがどうしても田舎で稼いだお金を都会が吸い取っている。学費や下宿費等がありますので。この仕組みは変わりませんが、町の方で何かできるのであれば、それをしてあげればこちらでも住め

るという選択の一つになれば、何か考えたいと思います。

またその辺りも教育委員のみなさんのご意見を頂ければ。どこそこでこのような制度をやっているとか、先ほどの上位何人は補助をするだとかありましたら、教育委員の定例会で言っていただければ、教育長の方から報告が来ると思います。

町 長 他に意見がないようでしたら、以上で本日予定しておりました議事を終了いたします。では、事務局にお返しします。

町当局 閉会の前に先ほどの一時預かりの件で1点ほどあります。県の方へ確認したところ、子育て支援的な事業は認定こども園では必要だけれども、一時預かりについては必要ではないということです。例えば子育て支援センターがあればいいというように、何かがあればいいというような回答だったようです。

それでは、以上をもちまして、平成29年度第1回西伊豆町総合教育会議を閉会といたします。本日は、ありがとうございました。

以上